

26 シーティング・クリニックの現状と課題

病院 岩崎洋 吉田由美子 中村優子 大熊雄祐 飛松好子

学院 星野元訓

研究所 井上剛伸 新妻淳子 中山剛 硯川潤 白銀暁 高嶋淳

【背景と目的】 当院シーティング・クリニック (SC) は1998年12月より、①座位保持装置の選定・適合・製作。②電動車椅子選定・適合・製作。③褥瘡発生や再発予防の指導。④座位の安定を図り、摂食・嚥下能力の向上。⑤座位の安定やPC、コミュニケーション機器の利用により意思伝達能力の向上等の目的で施行されている。今回はSCでの確立されたシステム、実績から得られた成果、今後の課題について報告をする。

【SC システムの内容】 開催日：毎週金曜日、9:00~17:00、対応者数と時間：1日平均7名、スタッフ：医師の処方・参加の下で、PT (理学療法士) 3名、PO (義肢装具士) 1名、研究員6名から構成されるチームで対応している。1名あたり延べ3-4時間かけている。医師の処方により開始し、PT、研究員、PO各1名の計3名で1名の患者に対応している。なお、症例に応じて作業療法士、看護師、言語聴覚士も対応している。

【実績】2001年4月から2014年3月までのべ人数は2520名、内訳では入院患者は410名 (16.3%)、外来2011名 (79.8%)、入所生99名 (3.9%) であり、疾患は頸髄損傷者580名 (23.0%)、脊髄損傷者は378名 (15.0%)、脳性麻痺907名 (36.0%)、その他655名 (26.0%) である。目的は2821件で車椅子・座位保持装置製作は1024件 (36.3%)、褥瘡予防指導923件 (32.7%)、電動車椅子製作・操作訓練592件 (21.0%)、その他102件 (10.0%) である。

【SCの特徴】 車椅子等の機器を製作するための評価から製作までのシステムである。従来では対象者に製作しようとする機器を選択し、座らせて評価をしていた。しかし、これでは、対象者の持っている機能が発揮できなくなり、適切な機器を製作できないことが考えられる。SCでは、まず、対象者を座っている機器から離し、マット評価を行う。この評価はマットで術者によるシミュレーションを行い、対象者の機能を把握して、製作する機器のイメージをつける。そして、試用機器を製作し、評価をする。結果が良好であれば、製作をする。このシステムは手間と時間を要するが、対象者に適合した機器の製作をすることができる。

【実績から得られた成果】 データの蓄積、経験の蓄積により、困難事例の対応も可能となった。成果としては①適合良好な座位保持装置や車いすの提案。②電動車椅子運転習熟の指導、機会提供。③座り方指導、調整による適切な座位の獲得援助。④車椅子やクッション調整による褥瘡予防法の提案と指導。褥瘡予防の教育や啓発活動である。脊髄損傷者の褥瘡予防の現状ではSC介入により5年では有意に褥瘡の再発が減少することが実証された。得られた成果を普及啓発として、当センター学院の研修会の福祉機器専門職員研修会、義肢装具等適合判定医師研修会、身体障害者更生相談所 身体障害者福祉司等実務研修会、理学療法士研修会で報告している。

【今後の課題】 SCでは、これまでの実績より有効性を確認する作業を行い、その結果を情報として学会、研究会、HPなどで発信する必要がある。さらにSCで作成した評価票を元に全国的なデータ蓄積を図り更なるエビデンスの検証に務める必要があると考えている。